

・18/3/2 名古屋市議会本会議

(名古屋市民オンブズマンによる、自動文字起こしアプリを使った文字起こし+修正)

田口一登(共産)

日本共産党、名古屋市議団を代表して質問します。

次に、名古屋城天守閣の木造復元について質問します。

市長は 2022 年 12 月完成というスケジュールで木造化を急いでいますが、拙速な木造化は市民との間で矛盾を広げています。

その一つがバリアフリー問題です。

本物にこだわる河村市長のもとで、昨年秋、名古屋市が復元天守にエレベーターを設置しない方針を示したことに対して、障害者の皆さんなどから車いす利用者が上がれなくなると反発の声が上がりました。

名古屋市は階段にチェアリフトを設置することも検討していますが、天守閣の最上階は 13 階建てのビルに相当する高さであり、リフトで最上階まで上がるのには、20 分から 30 分かかる。

しかも、リフトをつけると階段は上りか下りか一方通行にしなければならない。

多くの人があれば大渋滞です。

市長は、かつてこの議場で私の質問に対して、「名市大の学生に、背負子で背負って上がってもらったらどうか」と答弁されたことがあります。

市長。

復元天守のバリアフリー問題の解決で妙案が出てきましたか。

今でも背負子でおんぶしてもらおうというお考えですか。

木造復元については現在基本設計が行われており、来年度の予算案には実施設計費が計上されています。

今年 1 月に行われた市民説明会で、参加者の質問に対して、市当局は、基本設計ではエレベーターのありなしの複数案をまとめると答えられたようです。

観光文化交流局長にお尋ねします。

基本設計はエレベーターのありなしの複数案になるのですか。

バリアフリー問題は基本設計の段階では先送りしてもよいほど粗末な問題なんですか。基本設計でバリアフリー問題の解決方向が示されないままでは、実施設計に入れないと考えますが、いかがですか。

河村たかし名古屋市長

それから名古屋城のバリアフリーの問題ですけど、これ、わしいろんなところで言っておりましてまた記者会見でもこの間言いましたけど、それちょっと繰り返しますけど。

一つはまず誤解があるのは、今の現状でとられたらわかりますけどエレベーターで 5 階

までしか上がらないと、いざ展望台で7階にありますので、1階から6階まではいわゆる展望用の窓はありませんので、これが今現状でもそうだとということでございます。

そこをまずはっきり言っていかなきゃいけない。

それからもう一つは、具体的にやっておりますけど。

車いすそのものを、ロボットの的に階段を上がれるように改良できないかというのは今具体的にもう話しております。

これは車いすメーカーの人に聞きました。実はこの近所に注文車いすのトップメーカーもあるんですけど、やっぱりこの車いすをすると、地下街なんかの階段は上がれるように作るというのがこれ必要なんだと。

事故なんかありますけど、火災だとかそういうのがあ、煙もそうですけど、エレベーターが止まっちゃいますので。

これはやっぱりやる必要があると。

ということです、もしこれを機会にして、そういう新たな車いすが開発されれば、これは車いすの方にとって大変な、なんですかね光明になるということでございまして、こちらの方がまず一つ。

それからもう1個はこれも頼んでおりますけど、その手であげるというのもそういう意外と悪くなくてですね、これは補助分をつけるとその代わり。

月に一遍かふた月に一遍はあとハートフルデーとかバリアフリーでとかそういうのを作りまして、その日は健常者の方はちょっとご遠慮していただくということで、福祉関係の方は車椅子だけじゃありませんので、年食って上がれん方だとか小さいから上がれんとか目の不自由な方とかたくさんみえますので、中に相当人数がおってですね、例えば150人とか200人とかおってですね、みんなでみんなで支えてなおかつ仮にハートフルデーだったら、今、最大斜度が45度で一段が20センチ弱ですけど。そういうのでもスロープ化することはできますかね。上でちょっとかぶせる。

これは僕は素人目でいっとっちゃいかんですけど。

例えばウインチで引っ張りながら上は上で落ちないようにきちっと支えると。

そういう補助具を使いながら上がってってもらおうと。

いうことにしますと、今よりももっとたくさんですね。の人に、天守閣に上がってもらえることができる。いう方向に進めたらどうだということで、両方ともまだこれだというふうにはなっておりませんが、両方とも考えていきたいと思いますというふうにもなっております、今回でも、予算が計上されておる、ということでございます。

渡辺観光文化交流局長

観光文化交流局に2点のお尋ねをいただきました。

初めに、名古屋城天守閣の木造復元についてでございます。

天守閣の木造復元については史実に忠実な復元とし、焼失前の木造天守の木造天守を

復元するための基本設計を有識者の方々にご意見をお伺いしながら進めているところでございます。

そのような中で高齢者や障害者の皆様から天守の木造復元において、バリアフリー化すべきとの声もご要望いただいたことから、天守内の昇降について基本設計の中で様々な可能性について検討してまいりました。

併せて天守だけではなく、名古屋城全体へのアクセスを含めてバリアフリーについて庁内で課長級3回、局長級2回、計5回の会議を開催し、検討を重ねているところでございます。

お尋ねのありました実施設計との関係でございますが、原則として実施設計は、基本設計から引き続いて行うものであり、今後速やかに実施設計を進め、木造復元の詳細を確定してまいりたいと考えております。

したがって、バリアフリー等新たに付加する機能につきましては、基本設計において様々な可能性について検討してまいりましたので、それを踏まえ、バリアフリーの基本方針を決定するとともに、実施設計を進めながら詳細を確定してまいりたいと考えておりますので、御理解賜りたいと存じます。

田口一登(共産)

次に、天守閣木造復元についてです。

市長にお尋ねをいたします。

バリアフリー問題について、市長は先の本会議の所信表明で、「名古屋の象徴を、本来の忠実な姿に戻したい。木造本物復元整備がいよいよ本格化する」と述べられました。

天守閣にエレベーターをつけたら本来の姿に戻りません。

本物の天守閣にはエレベーターはついていませんでした。

先ほどの答弁でも市長はエレベーターつけても5階までしかあがれない。

そしてハートフルデーを設けるとかですね、車いすで階段があるし、新しい技術とかおっしゃいました。

ということは、バリアフリーについては検討するけれども、エレベーターは設置しないというのが市長のお考えだということでしょうか。

お答えください。

河村たかし名古屋市長

今そういうやり方をいろいろ考えておりましたですね、先ほど僕が言った新しい技術を、それから補助器具を使って上がると。いうことの方がたくさんの方が上がれますよと言っときますけど。

今その受け手の方も努力しましょうと、今なっておりますんで。

そういう方法によりまして、ようけの人が車いすの人それから年食って上がらない人が

ら子どもさん、それから目の悪い人とかそういう人も上がれるようにという最大限の努力をするということでございます。

田口一登(共産)

市長は先日 2 月 27 日の記者会見で、復元天守のバリアフリー問題について、記者の質問に答えて、次のように述べておられます。

「木造本物復元は市長選の公約だから裏切ることにはできない。全く本物本物でないならやめた方がええ」とまで言うておられます。

市長にお尋ねします。

復元天守にエレベーターをつけたら公約を裏切ることになりはしませんか。

河村たかし名古屋市長

それは状況にもよりますけど、少なくとも前の市長選では、私は本物で木造をはやくつくと、私でない方の方はポスターにはっきりとですね「ストップ木造化」というように書いてありましたので、いわゆる木造化というのは、木で作ればええという意味じゃありませんから当然。これは昔の設計図に基づいた、400 年前に徳川家康が上がったですね。そういうものに戦争の悲劇を乗り越えて作っていくと、しかし新しい時代の技術というのはものすごいですから今。

努力しようと言うておられますんで、それぞれ、そちらの方でチャレンジしていくということ。

田口一登(共産)

市長は、エレベーターの設置もありうるとは答弁されませんでした。

復元天守にはエレベーターを設置したくないというのが市長の本心だと思います。

しかし、障害者の皆さんなどからはエレベーターを設置してほしいと強く要望が出されています。

エレベーター設置という方針を示さなければ、障害者の皆さん等の理解は得られないでしょう。しかし、市長にとっては公約を裏切ってしまうことになるでしょう。

バリアフリー問題が今深刻な矛盾を来しています。

バリアフリーの基本方針を決めるのは、局の方はですね、3 月を目標ということは今までも言ってます。その基本方針の中でバリアフリーのありなしも決めたいということのようです。そうしますともう時間がありません。

時間がないので、最後、バリアフリー問題一つとっても、容易に解決できない、天守閣木造化は拙速に進めるのではなく、いったん立ち止まり、現天守閣の耐震化も含めて、再検討されるよう求めて、質問を終わります。